

# 第2回 日韓演劇フェスティバル 2012年1月17日(火)-30日(月)

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)

「日本演出者協会」の韓国への関心。今回、2012年1月シンポジウム、また

13 14 15 16 17 18 19 20 21

17(火)

★ オープニング  
セレモニー 19:00-20:30

18(水)

★ ドラマ・リーディング  
道の上の家族 15:00-

★ ドラマ・リーディング  
道の上の家族 19:00-

19(木)

★ トーク  
大学路① 16:00-18:00

奇妙旅行 19:00- アフタートークあり

20(金)

奇妙旅行 14:00-

奇妙旅行 19:00-

21(土)

★ おいでよマダン!! 日韓文化祭

22(日)

★ ドラマ・リーディング  
呉將軍の足の爪 13:00-

★ ドラマ・リーディング  
呉將軍の足の爪 17:00-

23(月)

★ トーク  
大学路② 16:00-18:00

異郷の涙 19:00- アフタートークあり

24(火)

異郷の涙 15:00-

★ トーク  
韓国現代演劇の魅力 19:00-21:00

劇団サンスユ

**A 奇妙旅行** 기묘여행 〈招聘作品、韓国語上演・日本語字幕付き〉

原作=古城十忍 演出=リュ・ジュヨン



1月19日(木)  
19:00-

1月20日(金)  
14:00-  
19:00-

※19日公演終了後  
アフタートークあり  
〈古城十忍+リュ・ジュヨン〉

この作品は死の仮面をつけた命の物語である。殺された娘の父親と、殺した青年の両親が、死刑が確定されたその青年に面会するため、共に刑務所に向かう1泊2日の旅中での出来事を描いている。殺人を取り巻く様々な人間群像、生命の尊厳と純粋性を描く。2002年に古城十忍が書いた戯曲に、韓国の注目される女性演出家、リュ・ジュヨンが挑む。2010年のソウル公演で話題を巻き起こし、2011年、東亜演劇賞新人演出家賞受賞。

이것은 죽음의 탈을 쓴 생명의 이야기이다. 살해 당한 여자의 아버지와 살인자인 청년의 부모가 사형이 확정된 그 청년에 면회하기 위해서 함께 교도소를 향하는 1박2일의 여행중의 이야기이다. 살인을 둘러싼 여러가지의 인간 군상, 생명의 존엄성과 순수성을 그린다. 2002년, 코조우 도시노부가 쓴 희곡에 한국에서 주목을 받고 있는 여성 연출가, 류주연이 도전한다. 2010년 서울 공연 때, 화제를 불러일으키고, 2011년, 동아연극상 신인연출가상 수상.

出演——  
ナム・ミョンリョル  
チュ・キジョン  
チャン・ヨンチョル  
クオン・チスク  
キム・ジョンヨン  
オ・イルヨン  
シン・ヨンジン  
シン・ヨンスク  
キム・ウォンジョン



リュ・ジュヨン——류주연

建国大学 国文科卒業。演劇の街、大学路(テハンノ)を代表する劇団「白首狂夫(ベクスカンブ)」の創立メンバーで、10年間演出部で活動し、2009年、自身が代表となって、劇団「サンスユ」を立ち上げる。堅固な基礎をベースとし、作品分析力や鋭い洞察力を持ちながら、静かで明るいカリスマ性を備えていることを特徴とする。現在、演劇界で最も注目されている若手女性演出家。



古城十忍——こじょう・としのぶ

宮崎県出身で、「ワンツーワークス」の主宰であり、劇作家・演出家。熊本日費新聞政治経済部記者を経て、1986年、劇団一跡二跳を旗揚げ。少年犯罪や在日差別、復讐の連鎖など、様々な社会問題をジャーナリスティックな視点から描いた作品を数多く発表。2008年に一跡二跳を解散し、2009年、「ワンツーワークス」を始動。代表作に『眠れる森の死体』『少女と老女のポルカ』『アジアン・エイリアン』、日本舞のオリジナル・ドキュメンタリー・シアター『誰も見たことのない場所』がある。現在、日本劇団協議会常務理事、新国立劇場演劇研修所講師。

劇団太陽族

**B 異郷の涙** 이향의 눈물

作・演出=岩崎正裕(劇団太陽族)



1月23日(月)  
19:00-

1月24日(火)  
15:00-

※23日公演終了後  
アフタートークあり

今を生きる人びとの姿を活写し、社会を浮き彫りにする作品を提示してきた劇団太陽族。

8年ぶりの東京公演となる今回は、韓国から俳優を招き共同製作に挑みます。

高度経済成長期の日本を生きた韓国人男性の人生を軸に、戦後から現在に至る日本を見つめる物語。日韓に横たわる歴史認識の差異、領土問題、在日コリアンなどさまざまな問題やわたがかりへのベクトルを持ちながら、戦後生まれの我々の現在を普遍的な人間ドラマとして描きます。

出演——  
森本研典  
南勝  
岸部孝子  
篠原裕紀子  
前田有香子  
佐々木淳子  
中西由宇佳  
韓寿恵  
米田嶺  
キム・ジュンテ  
チョン・ウォンテ



岩崎正裕——いわさき・まさひろ

1963年三重県鈴鹿市生まれ。劇作家・演出家。劇団太陽族代表。現在、アイホール劇場ディレクター、NPO 法人大阪現代舞台芸術協会理事長、大阪芸術大学短期大学講師など。1982年大阪芸術大学舞台芸術学入学。同年「劇団大阪太陽族」(現:劇団太陽族)を旗揚げ。1990年から「199Q 太陽族」2001年から現在まで活動を継続。1994年「レ・ボリューション」で第1回 OMS 戯曲賞佳作、1997年「ここからは遠い国」で第4回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。その他 1997年大阪市さくやこの花賞、1999年兵庫県芸術奨励賞、2000年大阪府舞台芸術奨励賞などを受賞。代表作はほかに『空の絵の具』『それを夢と知らない』『音楽劇 JAPANESE IDIOT』『越境する蝸牛』『往くも還るも』など。劇団での活動のほか、各地で戯曲塾講師や演劇ワークショップ講師や、プロデュース公演・市民参加舞台の作・演出を手掛け、舞台芸術普及活動を広く展開している。

東京・福岡・大阪 3都市巡演

2/4(土)~5(日)小倉・北九州芸術劇場小ホール  
2/11(土)~12(日)大阪・ドーンセンター

では、演劇を通して、韓国との文化交流を深めようと、シンポジウムや演劇を含めた、お互いの文化を見合う事業を続けて来ました。韓流ブームの影響もあり、日本は高まりましたが、日韓併合による政治的な問題から生まれ、今に続く問題への関心は薄く、交流を深めるためにはもっと対話が必要です。

1月から2月にかけて、東京、大阪、福岡の3都市で開催する運びとなりました。日本の演出家が韓国の戯曲を、韓国の演出家が日本の戯曲を上演、戯曲リーディング、音楽、舞踊、詩の朗読、韓国舞台のビデオ上映など行う予定です。是非、ご来場ください。

日本演出者協会理事長 和田喜夫

13	14	15	16	17	18	19	20	21
25(水)		★ ドラマ・リーディング こんな歌 15:00-				★ ドラマ・リーディング こんな歌 19:00-		
26(木)		★ ドラマ・リーディング ちゃんぽん 15:00-				★ ドラマ・リーディング ちゃんぽん 19:00-		
27(金)	★ マルセ太郎回顧展ゲストトーク 13:00-16:00						トンマッコルへようこそ 19:30-	
28(土)	トンマッコルへようこそ 13:00-						トンマッコルへようこそ 18:00-	
29(日)	トンマッコルへようこそ 13:00-				★ ちゃんそりトーク/ミニライブ 18:00-20:00			
30(月)	トンマッコルへようこそ 13:00-			★ エンディング セレモニー 17:00-18:30				

★はホワイエでの開催

## トンマッコルへようこそ 웰컴 투 동막골

作=チャン・ジン 翻訳=洪明花 演出=東憲司〈劇団棧敷童子〉



劇団棧敷童子『蟹』

撮影=梶原慎一

一枚の写真がある…敵対する兵士達が村の人々と一緒に写っている…なぜみんな笑顔なのか…?  
戦争が激化した 1950 年秋の暮れ…彼らはこの村で出会った…銃を構え、手榴弾を手に握り、背しあい、悲鳴をあげて…古ぼけた写真が鮮やかに紡ぎ出す、トンマッコル村の物語。

出演——松田賢二 鈴木歩己 Chris Parham・塩野谷正幸  
原口健太郎 池下重夫 桑原勝行 深津紀暁 井上昌徳 橋本克己 鈴木めぐみ  
外山博美 川原洋子 山本あさみ もりちえ 新井結香 中井理恵 大手忍 板垣桃子



### 東憲司——ひがし・けんじ

1999年に「劇団棧敷童子」を旗揚げ。劇団代表であり、劇作、演出、美術を手掛ける。ウェットな作風とダイナミックな大仕掛けの演出が融合した「生」への渴望みなぎる力強い作品は、大変高い評価を受けている。2004年から三年連続で岸田國士戯曲賞最終候補となり、『車鶏 307』（2007年）では鶴屋南北戯曲賞最終候補に選ばれた。劇団棧敷童子公演『海猫街』（2006年）で第61回文化庁芸術祭優秀賞、『海獣』（2009年）で倉林誠一郎賞、『蟹』（2010年）でバックアーズファンデーション演劇奨励賞を受賞。



### チャン・ジン——장진

1971年生。1998年『あざれた男たち』で映画監督デビュー。『カン&トックス』『小さな恋のステップ』『拍手する時に発て』『華麗なる系譜』『My Son~ あふれる思い』等、興行性の高い監督として認められ、『正しく生きよう』『トンマッコルへようこそ』では脚本兼プロデューサーとしても高い評価を得ている。『無駄骨』『タクシードラブル』『拍手する時に発て』等、優れた作品を相次いで公演し、演劇・映画界で最も活躍している作家、演出家。数々の賞を受賞し、『トンマッコルへようこそ』では、大韓民国脚本脚色賞を受賞。

1月27日(金)  
19:30-

1月28日(土)  
13:00-  
18:00-

1月29日(日)  
13:00-

1月30日(月)  
13:00-

## 韓国戯曲ドラマ・リーディング in ホワイエ

道の上の家族 作=チャン・ソンヒ 翻訳=石川樹里 1月18日(水) 15:00 / 19:00

舞台は晩秋のキャンプ場。久しぶりのキャンプで幸せそうにみえる家族。しかしその会話の中から父親の失業や、認知症の老妻を抱えた祖父、不在の幼い弟の影など、次第に家族の闇が浮かび上がってくる…。韓国の歴史・伝統文化に造詣が深い女性作者ならではの視点で、初演当時の社会状況を色濃く反映した、現代社会が抱える問題を扱った作品。(1998年初演)



演出=須藤英黄——すどう・きえ (百年座)

2003年劇団青年座文芸部入団。06年に森本薫・作『薔薇』を初演し、09年土田英生書き下ろし『その受胎器はロバの耳』で劇団本公演デビューをする。リーディング、韓国戯曲、ともに初めてのチャレンジ。

参加料=1000円

出演=稲垣隆史/溝口順子/横堀悦夫/山崎美貴/永井将貴/香椎凉/山下佳佳/桜木信介/田谷淳

呉將軍の足の爪 作=バク・ジョヨル 翻訳=石川樹里 1月22日(日) 13:00 / 17:00

貧しい小作人の一人息子、忠直な「呉將軍」は、同姓同名の他人の召集令状を受け取り、前線に行く事になる。敵の捕虜となり、上官に吹き込まれた嘘の情報を運らした為、母親、許嫁、飼いの牛を残して、銃殺される。事前検閲により上演禁止処分を受け、14年間目の目を見なかったが、今では、英・独・仏語にも翻訳されるなど韓国演劇を代表する作品に。(1974年発表 / 1988年初演)



演出=中野志朗——なかの・しろう (文学座)

東京出身。2007年度文化庁在外研修員として、ベルリンにて演出研修。ワークショップ講師としても活躍中。代表演出作品にファルク・リヒター作『崩れたパランス』、ベルトルト・ブレヒト作『男は男だ』がある。

参加料=無料

出演=十文字中学・高等学校 演劇部 / 立教池袋中学校・高等学校 演劇部

こんな歌 作=ジョン・ホックン 翻訳=石川樹里 1月25日(水) 15:00 / 19:00

扉を閉ざし、チマ・チョコリを縫い続ける女。夫はでっかあけのスパイ容疑で処刑され、息子は労働組合の指導者として警備隊に追われ焼死した。彼らは自らの思いを語り始める。外では息子の遺体を求め人々が争っていた…。韓国を代表するベテラン女性劇作家が、過去と現在が混在する時空間、人物の内面心理を凝縮した独白体で、人間・社会・歴史の関係を描いた問題作。(1994年初演)



演出=夏井孝裕——なついで・たかひろ (reset-N)

演出家、劇作家。1972年長崎五島生まれ。ク・ナウカなどの演出助手を経て1995年 reset-N を起動。1999年、第四回劇作家協会新人戯曲賞受賞。パロウスなど海外現代文学作品の舞台化にも取り組む。

参加料=1000円

出演=藤谷みき/鶴牧万里/久保田芳之/綾田将一/三嶋義信/山田奈夕子

ちゃんぽん 作=ユン・ジョンファン 翻訳=津川京 1月26日(木) 15:00 / 19:00

たった 30 年前。1980 年、韓国は軍事独裁政権下にあった。光州の中華料理屋「春来園」の面々は明日のピクニックを楽しみに、その日最後の出勤を送りだしたが…その夜、全国に戒厳令がしかれ、翌日、軍と学生が衝突した。これってちゃんぽんのせい?!…車庫発火で、笑ってはいけな国民的トラウマ「光州事件」を笑いのめす衝撃作。(2004年初演)



演出=広田豹——ひろた・ひょう (プルバキリュス)

俳優・演出家・演技教師。花組芝居、ベレシグヴァーニエ・アートシアターを経て、現在プルバキリュス世話人。スローガンはいにしへのロシア演劇人にならぬ「論理性・順序性・異外性」。

参加料=1000円

出演=佐川大輔/木咲樹音/二宮敦/桂ゆめ/小野了/瑞木健太郎/伊澤勉/河崎美/松熊つる松

東京・大阪・福岡 3都市巡演

2月8日(水)大阪・ドーンセンター  
2月11日(土)福岡・大博多ホール

# ホワイエ おいでよ、マダン!! 日韓文化祭 1月21日(土) 13:00-17:00

\*マダン：広場

## 日韓落語 (日本語と韓国語落語)

日本語と韓国語で落語を楽しもう!!

古今亭菊千代——ここんてい・きくちよ／友情出演



昭和59年、古今亭円菊門下に入門、平成5年に先輩の三遊亭歌の多と共に女性初の真打に昇進。以降、本来の寄席やホール、各落語会の出演のほか、手話と一緒に楽しむ落語、朝鮮・韓国語での落語、新作、自作品など、また、南米など海外の日系の方々の前でも多数口演。東京拘置所では篤志面接委員として受刑者対象に話し方教室、講演では「落語界楽屋話・男女共同参画・人権・平和・矯正・手話活動」などをテーマに各地を奔走中。被災地への出前落語も積極的に参加。

## 新内「ぶんや・ありらん」

…副題「謝罪寸志」、かつて赤い新内とも言われた故岡本文弥が98歳の時に作曲した反戦新内。新内の哀切極まりない節が、従軍慰安婦たちの慟哭を呼びさす。

岡本宮之助——おかもと・みやのすけ／友情出演



三世岡本宮之助(三世岡本宮古太夫)岡本派後継者として、大叔父故岡本文弥のもと修業。古曲、文弥作品の普及、創作活動にも力を入れ、時代を担う邦楽家として注目されている。

韓国民話、伝統遊びや童謡に触れよう!!

金基英——1962年韓国

仁川生まれ。「全国語りネットワーク」や「民話と文学の会」などで、韓国民話の紹介や普及活動を行い、長野パラリンピックでは皇太子と雅子妃の通訳を勤めた。民話や遊びを通じて「ふれあい」の場を設け、韓国文化の豊かな面を紹介している。



韓国民族衣装体験&撮影コーナー  
子供から大人まで、  
宮中衣装も勢揃い!

提供：フライタル&オリジナル「サラン」  
協力：在日大韓民国婦人会東京地方本部

ほかにも

バンソリ (在日本韓国 YMCA) / 空手演舞 (世界誠道空手道連盟誠道塾東京支部 豊島区)

テコンドー (韓国文化院テコンドー教室) / 日本の踊り (東北地方の踊り)

ブンムルノリ (在日本韓国 YMCA) / ミニライブ (夫歌寛) ほか



韓国食品販売コーナー

## オープニングセレモニー

1月17日(火) 19:00-20:30

・マッコリ乾杯 ・挨拶 ・フェスティバル参加者パレード ・交流会

ゲスト= 洪由花 (民族楽器重奏団「民楽」) 「タンソ独奏」  
康美純 「カヤグム独奏」 / 和太鼓集団「婢弥鼓」

テハンソ

トーク アジア最大の劇場街・大学路

① 韓国の演劇事情・演劇教育 1月19日(木) 16:00-18:00

イムヨンウン (韓国芸術員 劇団サメム代表) パクチャンヨル (ソウル演劇協会会長) 金成魯 (韓国演劇家協会会長)

篠崎光正 (日本演出者協会理事)

② 韓国演劇留学よもやま話 1月23日(月) 16:00-18:00

大学路のビデオ紹介、留学生達によるトーク

上野紀子 (ライター)、鬼頭典子 (文学座)、津川泉 (脚本家) 他

## 「マルセ太郎」回顧展ゲストトーク

1月27日(月) 13:00-16:00

大阪出身の在日朝鮮人二世。動物の形態模写や一本の映画を丸ごと演じる『スクリーンのない映画館』で独自の語彙を開花させ、2001年1月22日逝去したマルセ太郎を、ゲストたちが語る。



## ちゃんそり

～在日ってどないやねん!?～

1月29日(日) 18:00-20:00

\*ちゃんそり:無駄話、おしゃべり

梁石日 / 崔洋一 / 夫歌寛

朴璐美 / ぱくきょんみ / 中村純

「詩の朗読」ぱくきょんみ / 中村純

「ミニライブ」夫歌寛



## 韓国現代演劇の魅力

1月24日(木) 19:00-21:00

～日韓演劇交流センターの活動から

2000年4月に日本国内の演劇関係7団体を中心に発足した日韓演劇交流センターは、韓国現代戯曲のリーディング公演を催してきました。その10年に渡る活動を紹介しながら、韓国演劇の魅力を探っていきます。

大笹吉雄 (評論家・日韓演劇交流センター会長)

西堂行人 (評論家・日韓演劇交流センター副会長) 他

## エンディングセレモニー

1月30日(月) 17:00-18:30

ゲスト= 在日本韓国 YMCA

常設展示

## 日韓演劇交流史 日韓・在日史

(提供)

在日韓人歴史資料館

日韓演劇交流センター 岡本昌己



## マルセ太郎展

\*ビデオ上映あり

## 韓国のマタハリ 崔承喜展

韓国パッチワーク

「日本育ちのボジャギ～私のルーツ」= 金仁淑

詩= ぱくきょんみ / 中村純

絵画・民族衣装展示など

日韓在日コリアン合同音楽劇ビデオ上映

『チェジュ・パラ』 (企画製作 民俗工房)